Ⅲ―４　外国語

特定の課題に対する調査
教科等別結果の分析と考察

1 【系統性】の理解に基づく【連続性】を確保した調査企画の全体像

領域	指導事項(コミュニケーション活動例)	
ア　聞くこと	(ｱ)	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
	(ｲ)	自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。
	(ｳ)	質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
	(ｴ)	話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
	(ｵ)	まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

イ　話すこと	(ｱ)	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
	(ｲ)	自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
	(ｳ)	聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
	(ｴ)	つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
	(ｵ)	与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

ウ　読むこと	(ｱ)	文字や符号を識別し、正しく読むこと。
	(ｲ)	書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
	(ｳ)	物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
	(ｴ)	伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
	(ｵ)	話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

エ　書くこと	(ｱ)	文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
	(ｲ)	語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
	(ｳ)	聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
	(ｴ)	身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
	(ｵ)	自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

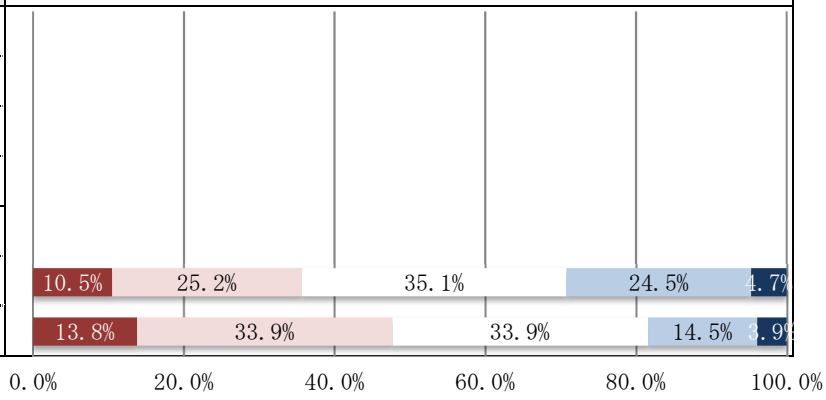
※S～C：設問レベル、【表】外国語表現の能力　【理】外国語理解の能力、
【知】言語や文化についての知識・理解、番号：設問番号

中学校		
第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
※調査対象としない	出題範囲：小学校第 5・6 学年、中学校第 1 学年	出題範囲：中学校第 2 学年
	・C【理】【知】1-2	・C【理】【知】1-2 ・C【理】【知】1-1-1 ・B【理】【知】1-1-2
	・C【理】1-1-1 ・B【理】1-1-2 ・S【表】【理】1-5-2　※領域複合エ(ｳ)	
	・C【理】1-3-1 ・B【理】1-3-2	
	・C【理】【知】1-4-1	・B【理】【知】1-3
	・A【理】1-5-3	・B【理】1-4-2
	・C【表】【知】2-1-1 ・B【表】【知】2-1-2	
	・B【表】【知】2-3-1 ・B【表】【知】2-3-2	・C【表】【知】2-1-1 ・C【表】【知】2-1-2 ・B【表】【知】2-1-3 ・B【表】2-2-1 ・B【表】2-2-2
	・C【表】【知】1-4-2	
		・A【理】4-5　※領域複合ウ(ｵ)
	・B【理】3-1 ・B【理】3-2 ・A【理】3-3 ・B【理】4-1 ・A【理】4-2 ・B【理】4-3	・B【理】4-1 ・C【理】4-2 ・B【理】4-3-1 ・B【理】4-3-2 ・B【理】4-4 ・C【理】5-1 ・B【理】5-2 ・A【理】5-3-1 ・A【理】5-3-2 ・A【理】5-4 ・S【表】【理】5-5　※領域複合エ(ｳ)
	・A【表】【理】5-1　※領域複合エ(ｴ)	・A【表】【理】3　※領域複合エ(ｴ)
		・A【理】4-5　※領域複合イ(ｵ)
	・B【表】【知】2-2-1 ・B【表】【知】2-2-2	
	・S【理】1-5-1 ・S【表】【理】1-5-2　※領域複合ア(ｲ)	・S【理】1-4-1 ・S【表】【理】5-5　※領域複合ウ(ｳ)
	・A【表】3-4 ・A【表】【理】5-1　※領域複合ウ(ｴ)	・A【表】【理】3　※領域複合ウ(ｴ)
	・S【表】5-2	・S【表】6

2　結果の分析と考察

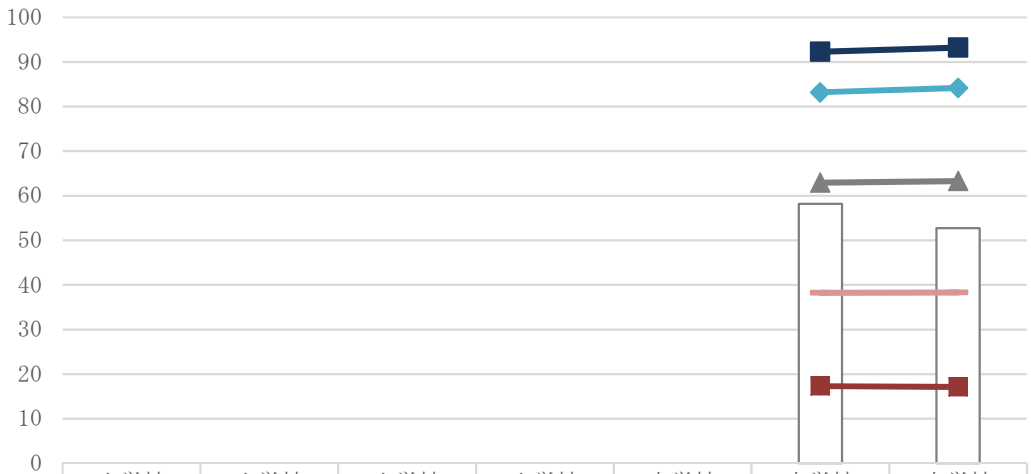
（1）5段階の学習状況の評定（学力段階）（再掲）

校種・学年		平均	全体に占める各学習状況の児童生徒の割合 R1	R2	R3	R4	R5
小学校	第3学年						
	第4学年						
	第5学年						
	第6学年						
中学校	第1学年						
	第2学年	2.88	10.5%	25.2%	35.1%	24.5%	4.7%
	第3学年	2.61	13.8%	33.9%	33.9%	14.5%	3.9%



※学習指導要領に準拠した調査実施の前学年の学習状況の評定（学力段階）
R5 発展的な力が身に付いている　　R4 十分定着がみられる
R3 おおむね定着がみられる（最低限の到達目標）
R2 特定の内容でつまずきがある　　R1 学び残しが多い

（2）学習状況の評定（学力段階）ごとの平均正答率（教科等全体）（再掲）



	小学校 第3学年	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
全体						58.2	52.7
R1						17.3	17.1
R2						38.2	38.3
R3						62.9	63.3
R4						83.2	84.2
R5						92.3	93.2

〔学力段階に関する考察〕

○「杉並区教育ビジョン 2012 推進計画」の目標Ⅰに準拠すると、中学校第 3 学年における R3 以上の割合はおよそ 50%であり、平成 33 年度の目標値 80%からは 30 ポイント低い状況である。この状況を生徒数に換算すると、平成 33 年度目標値に至るためには、杉並区全体では 600 人（学年を 2,000 人とした場合）、1 校あたりではおおむね 26 人を R3（以上）に引き上げることが必要である。

○学年の進行に伴い R2 が 8.7 ポイント増加している一方、全段階での変化の度合いが最も大きいのは R4 の 10.0 ポイント減である。

○R2 は、主として基礎 B の設問を（おおむね）通過できなかった場合の評定である。基礎 B は 4 領域の全てかつ外国語表現と理解の能力の両観点において出題しており、コミュニケーション活動における基礎的な知識や基本的な技能を出題内容とする。特に中学校第 1 学年を出題範囲とする第 2 学年の設問は、小学校外国語活動からの【系統性】【連続性】を踏まえ、全設問に占める「聞くこと」「話すこと」の割合が高い。小学校の指導が充実しつつある今、小中の接続の仕方にも課題があると考えられる。

◎（概括 1）R1、R5 はほぼ固定である一方、中学校第 2 学年(第 1 学年の内容）の時点では「R3 おおむね定着がみられる」生徒が、学年進行に伴い「R2 特定の内容でつまずきがある」状況になる傾向があると考えられる。同時に「R4 十分定着がみられる」生徒が R3 に後退する傾向が顕著である。総体的に学年の進行に伴い一つ下位に評定される生徒が発生すると考えられる。

◎（概括 2）特に R1・2 は、小学校外国語活動からの【系統性】【連続性】を理解・確保するための校種を超えた【協働】を通じて、聞くこと・話すことの活動、音声から記号への接続を図る手だてによっても現状を改善していくことができると考えられる。

〔教科全体の学力段階ごとの平均正答率に関する考察〕

○段階ごとの正答率は、R2 から 5 については学年の進行に伴い微増、R1 では学年進行に伴い微減の傾向がみられる。

○全体の正答率と R3 のそれとの差は、両学年とも R3 が高く、学年進行に伴い大きくなる。この背景には、上述した学年進行に伴う R2 の増加が要因としてある。

○段階間の正答率の差は、両学年ともに、下位の段階に行くほど大きくなる傾向がある。

○なお、学年進行に伴い段階ごとの正答率に微減／増がみられるものの、同程度とみなしてもよい水準である。このことから、調査の難易度は両学年で十分統一されている。

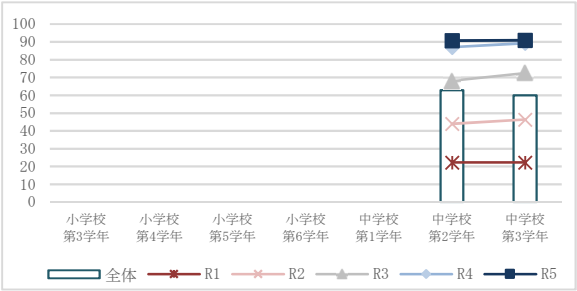
◎（概括 1）R2 の生徒については、基礎的・基本的な事項の確実な習得、すなわち基礎 B・C の設問を全て(準)通過した場合の正答率である約 65%を目指した指導が必要である。現状は、第 3 学年を例にとると 27 ポイント程度である。設問数に換算すると約 6 問程度となるため、各領域において基礎 B として出題した 1.5 問（＝6 問÷4 領域）分の指導事項について、つまずきを解消していく必要がある。

◎（概括 2）R1 が 2 と評定されるためには、約 30%の正答率が必要である。現状－10 ポイント程度、2.5 問分の指導事項の学び残し解消を見積もることができる。

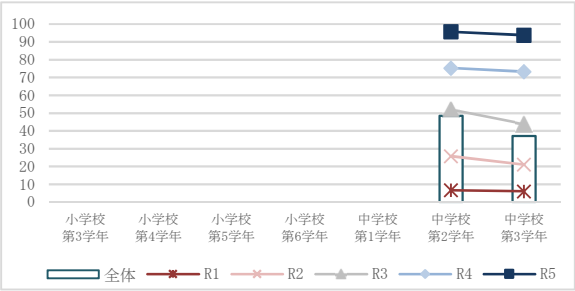
（3）基礎・活用別、観点別、領域別の学力段階ごとの平均正答率

①基礎・活用別

ア　基礎

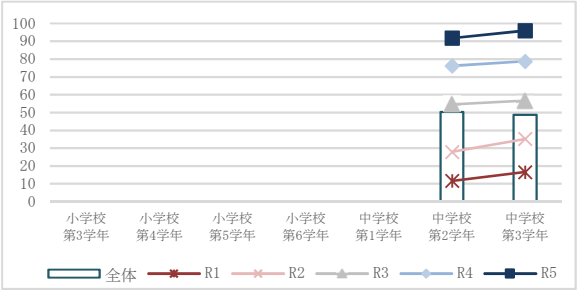


イ　活用

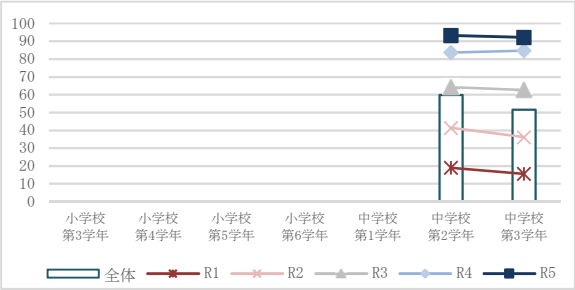


②観点別

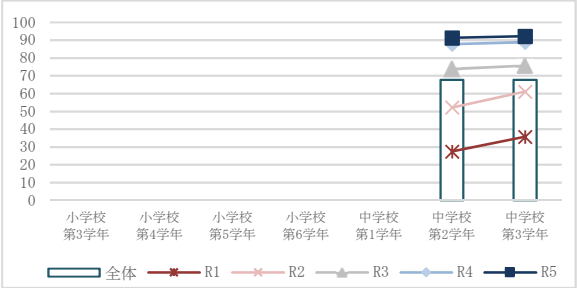
ア　外国語表現の能力



イ　外国語理解の能力

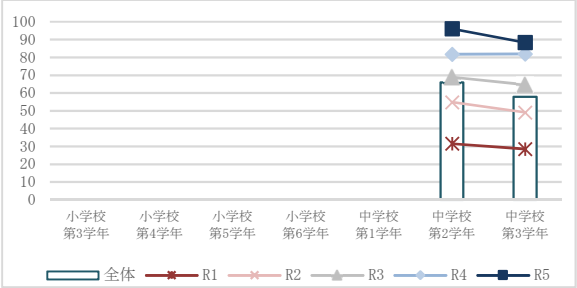


ウ　言語や文化についての知識・理解

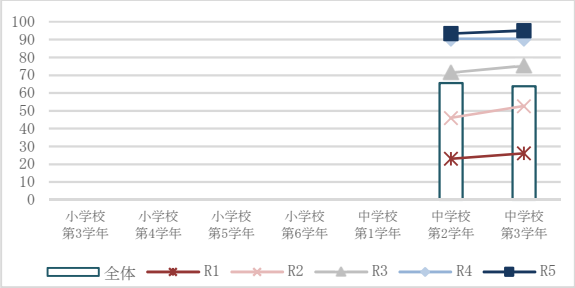


③領域別

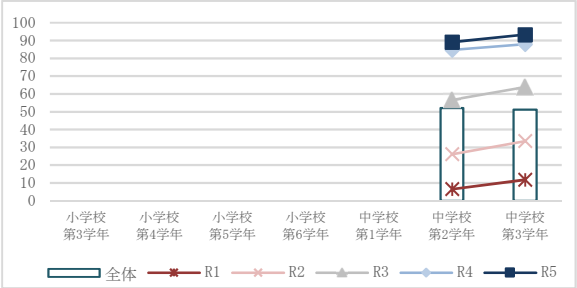
ア　聞くこと



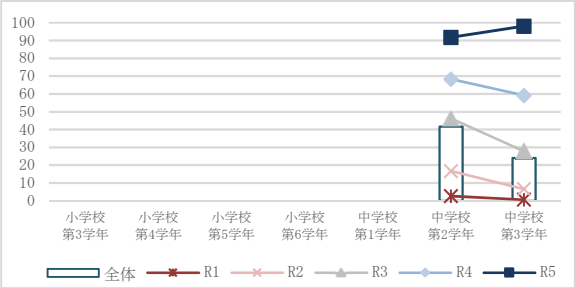
イ　話すこと



ウ　読むこと



エ　書くこと



〔基礎・活用別、観点別の考察〕

○学年進行に伴う正答率の変化は、「基礎」「活用」ともに低下傾向がある。

○段階別にみると、学年進行に伴い、「基礎」は R2 が下降、「活用」は R1～5 が下降の傾向がある。

〔観点別の考察〕

○「言語や文化についての知識・理解」は、R1 から 3 に学年進行に伴う上昇がある。

○「外国語表現の能力」は、R1～5 に学年進行に伴う上昇傾向がある。

○「外国語理解の能力」は、学年進行に伴い R4 は上昇、それ以外は低下している。

〔領域別の考察〕

○「聞くこと」は、R4 を除き学年進行に伴う下降傾向がみられる。

○「話すこと」は、学年進行に伴い全段階で正答率の上昇傾向がみられる。しかし、後述（4）イ①「会話の継続」に関する設問によれば、全レベルで通過率の低下がみられている。二度三度と双方向にコミュニケートできる表現の能力の育成に課題を残す。

○「読むこと」は、学年進行に伴い全レベルで正答率の上昇傾向がみられる。ただしこの傾向は、「読むこと」の設問が全体に占める割合が、第 2 学年の 28%（7 問）と比較し、第 3 学年で 52%（13 問）に上昇することの影響もあると推察される。

○「書くこと」は、R5 を除き、学年進行に伴う正答率の低下が他領域と比較し顕著である。後述（4）エを参照すると、複数技能を統合するメモ（①）では R5 を除く全ての段階、つながりのある文章（②）では全ての段階で通過率の低下が著しい。

◎（概括 1）上記は、正答率を主たる材料にした考察であり、また同個体の経年変化に基づくものではないことを主たる理由とし、正答率の微細な変化や差をもって、学年進行に伴う傾向や観点・領域間を比較した傾向を同定することは避けるべきである。以下は、これらのことを前提としてもなお、解決する必要のある課題である。

◎（概括 2）「外国語表現の能力」「言語についての知識・理解」は、R1・2 に学年進行に伴う状況の改善がみられる。しかし、「外国語理解の能力」については、R5・4 を除く全ての段階でつまずきや学び残しがそのままになっている可能性がある。

◎（概括 3）「話すこと」における会話の継続に関する指導は、特に R1 の最初の学び残しを解消することにつながる。ただし会話の継続は、R4 以下で学年進行に伴う低下傾向がある。よって、小学校から中学校への円滑・意図的な接続を図り、日常生活に即した具体的なコミュニケーション場面で 4 技能を統合的に活用させる必要がある。

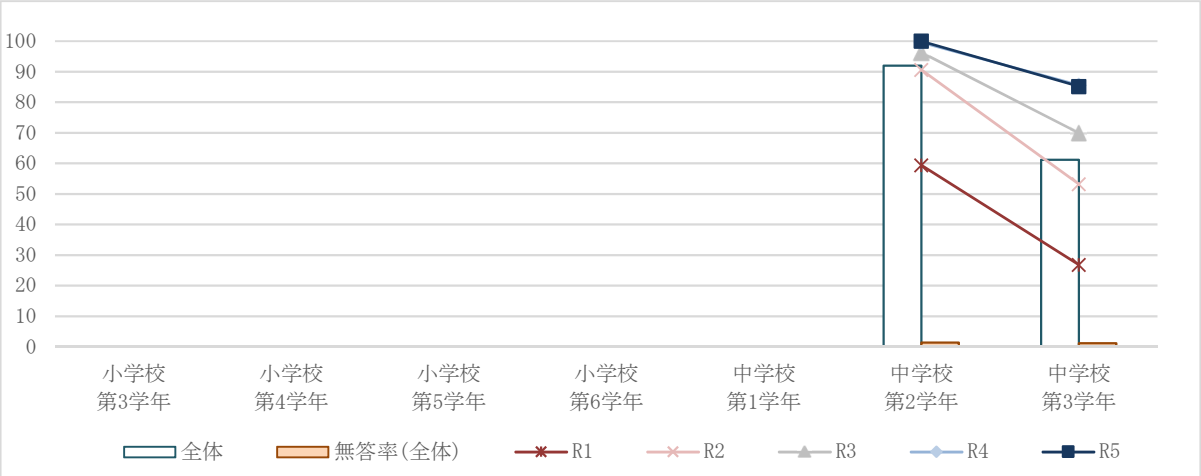
　なお、基礎・基本の（具体的なコミュニケーション場面の設定がない）反復はその必要性を認めつつも、習得や定着が十分でないという理由のみでの適応は避けるべきである。R1 や 2 の生徒は、日常生活に即し設定された具体的な場面において、音声を用いるコミュニケーション活動の蓄積が十分ではないことも多い。この点をどう補完するかが課題である。

（4）領域別に抽出した設問の（準）通過率・無答率

ア　聞くこと

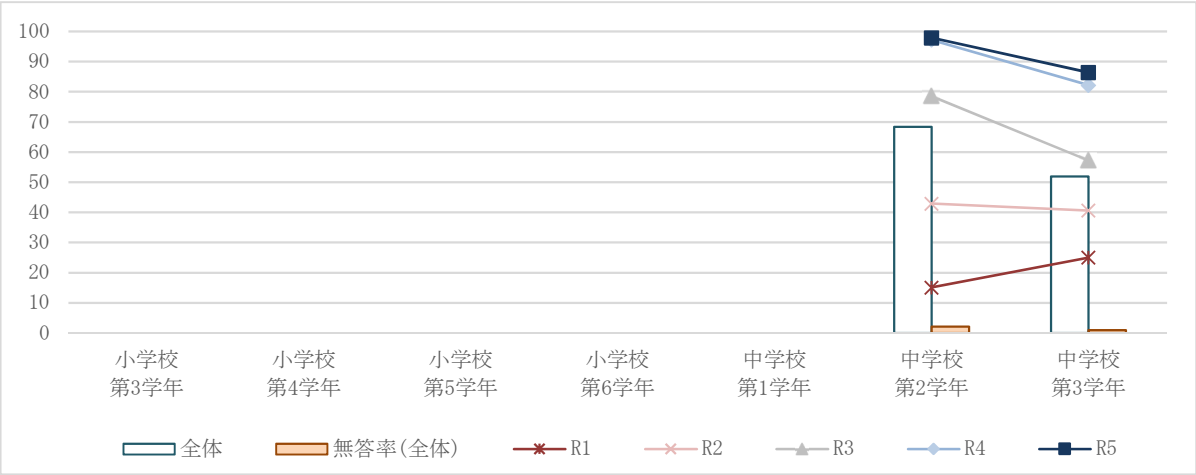
①「聞き返す・内容の確認」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨・内容【観点】
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	C	1-4-1	（ｴ）　聞き返す・話の内容を確認する。【知】【理】
	第３学年	B	1-3	



②「概要・要点の聞き取り」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨・内容【観点】
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	C	1-3-1	（ウ）　質問・依頼などに適切に応じる。【理】
	第３学年	B	1-1-1	質問・依頼などに適切に応じる。【理】



〔「聞き返す・内容の確認」に関する設問の考察〕

第 2 学年と第 3 学年ともに、聞き返す・内容の確認を趣旨としており、設問レベルはそれぞれ基礎 C と基礎 B である。全体の通過率は第 2 学年が 85.9%、第 3 学年が 61.2%であり、第 2 学年の R3・R2・R1 の通過率が 91.9%、81.7%、45.3%、第 3 学年の R3 から 1 の通過率がそれぞれ 70.0%、53.2%、26.8%である。両学年とも R2 と 1 の間につまずきの発生があることが分かる。

聞くことの中で「聞き返す・内容を確認する」ことは、小学校外国語活動においては慣れ親しむ場面もあるり、中学校においては相手の伝えたい内容を理解するために必要不可欠な言語活動である。聞き返すには、内容の正しい把握が必要である。新学習指導要領の領域が五つに分かれ、新しく「話すこと（やり取り）」が入った。相手との継続したスムーズな会話、つまり言葉のキャッチボールができる能力を求めたものである。「やり取り」はこの「聞き返す、内容を確認する」に基づく活動である。会話のキャッチボールを上達させたいと思えば、話す訓練を優先・強化したいと考えがちであるが、その前に正しく聞き理解する必要があることは自明の理である。そのためには英語独特の音変化の知識と日本語と異なる英語の文構造の理解も併せて押さえておく必要がある。小学校外国語活動で培った素地の上に、中学校で学んだ知識を活用した十分な質と量の活動を継続的に導入することが有効な手だてと考える。また、英語を特別なものとして捉えるのではなく、日常や学校生活の様々な場面において、生徒同士で使う、英語で考える習慣を付ける、場面を想定した授業などを取り入れる等の工夫が必要である。

〔「質問・依頼などに適切に応じること」に関する設問の考察〕

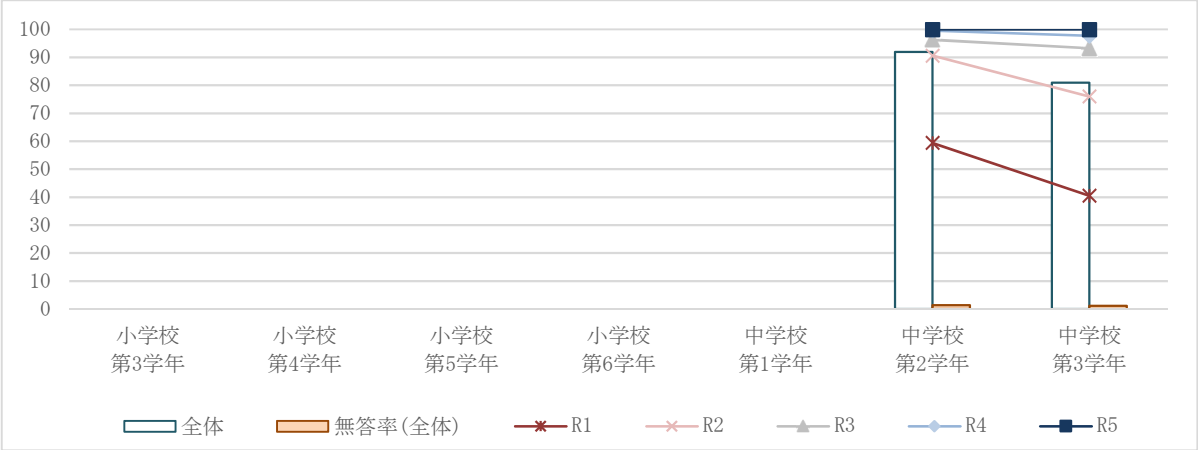
両学年とも簡単な対話を聞き、要点を理解する必要がある設問であり、基礎 C である。全体の通過率は第 2 学年は 68.4%、第 3 学年は 51.9%、R1 の通過率は第 2 学年が 15.1%、第 3 学年 25.0%である。対話は両学年ともに第 1 学年で履修した文法のみで構成されており、1 文もそれぞれ 5 単語以内と短い。文字で見れば理解できるレベルの事柄が音声になると理解できない、ということが考えられる。

第一の要因は「聞くこと」の活動が他領域と異なり、自分のペースで進めることができないところにある。相手から与えられる情報に対応するにはそれ相応のレディネスを必要とする。そのためには、英語特有の音変化、文構造、基本的な定型表現、一定のメッセージや物語に慣れる等、領域総合的な指導が必要である。第二の要因は学年を追うごとに増える語彙や定型表現等を知識レベルにとどめて活用の段階まで至っていないことが考えられる。4 領域の中の第一歩となる「聞くこと」が、逆に授業の盲点になりやすいことから、話されるスピードや回数、多様な音声、雑音の有無等の条件を加味しつつ生徒一人ひとりの到達度をきめ細かく把握したうえで、聞くことの必然性を伴う更に質の高い指導が必要となる。イレギュラーの連続であるコミュニケーションだからこそ関わりを楽しむ姿勢を大切にしたい。

イ　話すこと

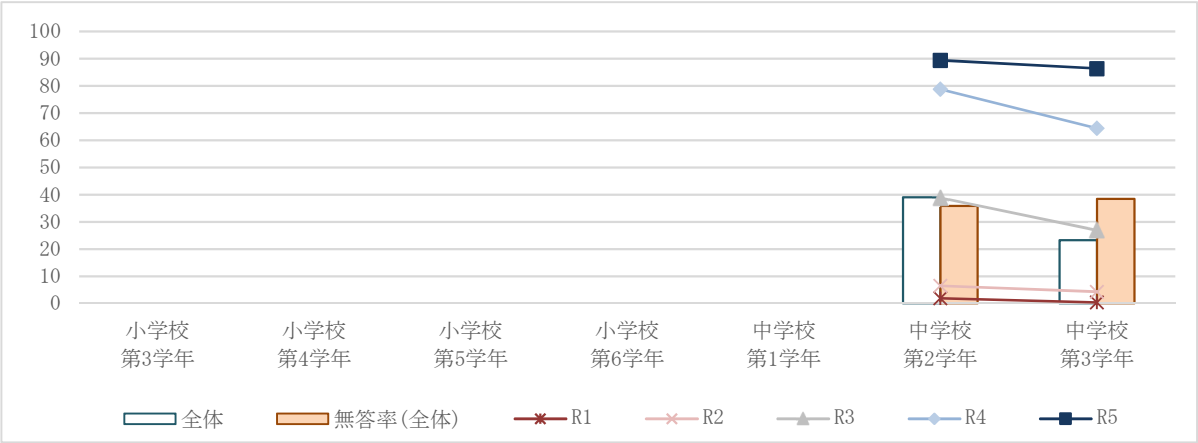
①「会話の継続」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	C	1-4-2	(ｲ)　つなぎ言葉を用いて話しを続ける。　【理】【知】
	第３学年	B	2-1-3	(ｳ)　話題をつなぐ応答をする。　【理】【知】



②「問答・意見を述べ合う」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	B	2-3-2	(ｳ)　話を聞き、特定の条件・状況下の質問に答える。【理】
	第３学年	B	2-2-2	(ｳ)　話を聞き、特定の条件・状況下の質問に答える。【理】



〔「会話の継続」に関する設問の考察〕

話すことは、本来紙面による測定は困難である。よって考察に当たっては指導事項・設問が限定的であることを前提する。そのうえでの出題趣旨は会話の継続である。

当設問においては両学年ともＣレベルであり、第２学年では相手の話に関心をもって相づちを打つときのつなぎ言葉としての基本的な表現を選ぶ設問、第３学年では相手の話した内容に関心を示し話題をより継続・発展させるための質問的要素をもつ設問である。第２学年の通過率をみると全体が 92.0％、R3 が 96.3％、R2 が 90.6％、R1 が 59.4％である。第３学年は全体が 81.0％、R3 が 93.3％、R2 が 76.0％、R1 が 40.5％である。学年進行に伴い R2・1 が約 15～20％の通過率の低下をみると、ここにつまづきや学び残しの発生があるのが分かる。「聞くこと」の考察でも触れているように、新学習指導要領では現行の「話すこと」の領域が「やり取り」と「発表」に分けて設定されている。これは「話すこと」のより具体的で確実な指導が必要であることを意味している。当設問は身近な場面において相手とのコミュニケーションを確認したり発展させたりする重要な手段を含む「やり取り」の領域に当たる。

中学校においては、まず「音声」から「文字」へ円滑につなぎ、更に双方向の関係を通して即時的な要素を加味した指導の定着を心がけることが大切である。次に外国語での「やり取り」における日本語との文化的差異にも着目することも必要である。無言でうなずくだけでなく適宜質問することがマナーであり、以心伝心を期待して質問しないことの方が失礼に当たること等の「話す文化」についても理解させたい。

〔「問答・意見を述べ合う」に関する設問の考察〕

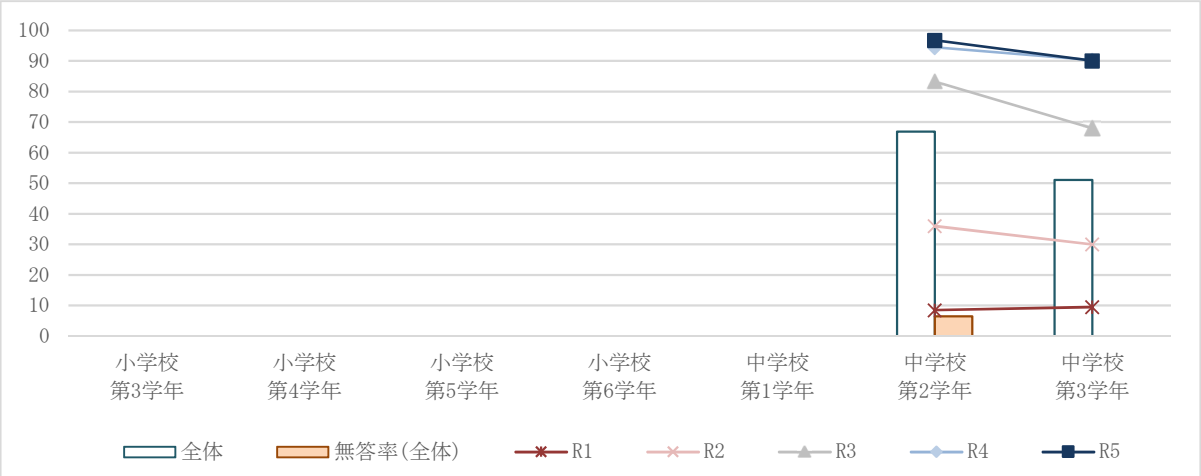
自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることは、学習指導要領に示されるコミュニケーション活動例の規定上、問答したり意見を述べ合ったりすることなどのまとまったメッセージを伴う双方向のコミュニケーションの継続に発展する。第２学年では「体調に関する対応の仕方」、第３学年では「初めて行く土地で訪れるべき適当な場所をたずねる言い方」という「特定の条件や状況下における対応」を問う設問である。両学年とも基礎Ｂであるが、全体の無答率は第２学年が 35.9％、第３学年が 38.5％である。通過率は、全体が第２学年 39.0％、第３学年 23.3％、R1 と 2 は両学年とも一桁、R3 においても第２学年が 38.8％、第３学年が 26.9％である。

特定の条件や状況下での「やり取り」は、個人の気持ちや考えは多様であって答え（応え）は一つではない。それぞれの条件や状況に応じて真に自分が伝えたいことの表現力をつけるためには、日常の言語活動において相手の話を関心をもって聞き、それに対して適切なやり取りが継続・発展できるような場の設定と支援が必要である。知識として理解していることと、条件や状況に応じて変化する相手に自分の伝えたいことを伝えることが明確に違うとすれば、できるだけ現実に近い状況下でのコミュニケーションの成功体験を積み重ねて自信を付け、その過程で徐々に生徒自らが工夫をしていくサイクルをつくることが喫緊の課題であると考える。

ウ　読むこと

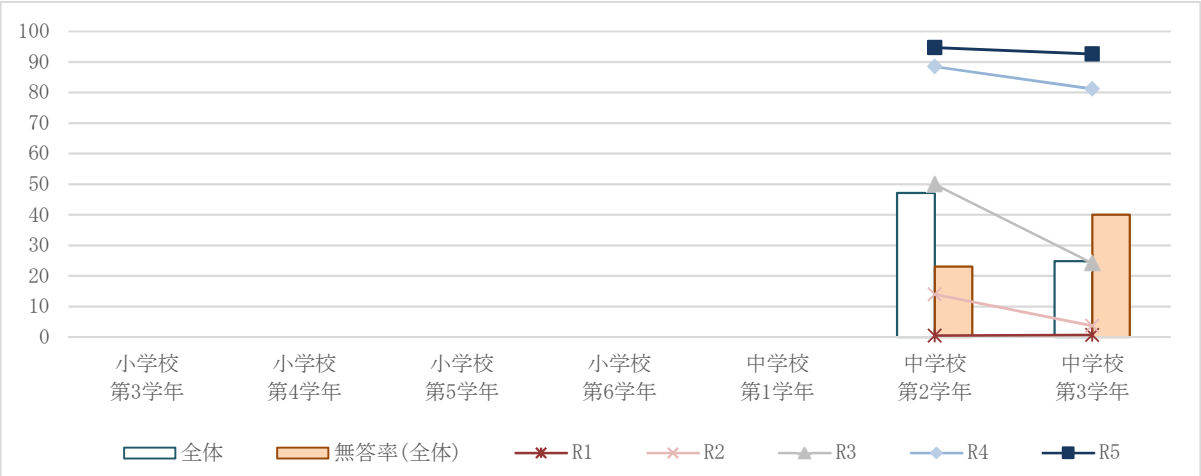
①「正確に読み取る」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨	
小学校	第３学年				
	第４学年				
	第５学年				
	第６学年				
中学校	第１学年				
	第２学年	B	3-1	(ｳ)	金額を正確に読み取る。【理】
	第３学年	B	4-1		映画のタイトルを正確に読み取る。【理】



②「意向を理解し応じる」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨	
小学校	第３学年				
	第４学年				
	第５学年				
	第６学年				
中学校	第１学年				
	第２学年	A	5-1	(ｴ)	メールに対する返事を書く。【理】【表】
	第３学年	A	3		文化の違いに対する助言を書く。【理】【表】



〔「正確に読みとる」に関する設問の考察〕

第2・3学年ともに、正確に読み取ることを目標とし、設問レベルは基礎 Bである。第2学年では、まとまった物語文を読み、会話の流れからホットドッグの値段を問うている。全体の通過率は66.9%で、R3から1はそれぞれ83.3%、36.0%、8.5%であり、R3と2の間に約47%と他の段階間以上の差がある。また R1の無答率が73.6%であることをみると、R1は、まとまった英文の流れを理解しながら、値段を計算する目的を達するまでに至らなかったものがほとんどだと考えられる。第3学年では、物語の展開に沿って変化する条件を追い、結論となる「映画のタイトル」を正確に読み取らせる設問である。通過率は、全体が51.1%、R3から1はそれぞれ68.0%、30.0%、9.5%であり、R3と2の間に38%、R2と1の間に約20%の差がある。無答率もR1では43.3%である。本文とメモを見比べて、4ある映画の条件の読み取りが十分ではなかったと考えられる。

英文を読むに当たって、逐語的な読み方ではなく、トップダウン方式で自分が必要とする情報を捉えながら読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことや、文字や符号を識別しながら、あらすじや大切な部分を読み取っていくことが重要である。この事項は、新学習指導要領の小学校外国語活動における「日常生活に関する身近な内容から、自分が必要とする情報を得る活動」を発展させたものであり、中学校においてはまとまった物語を聞き続ける力を身に付ける活動を積み重ねつつ、まとまった文の中から自分の必要とする情報を探す読み方であるスキャニング(scanning)の力をみるものである。まとまりのある文を読むとともに読む目的に応じた読み方の指導が必要である。教科書を活用した指導を基に、英語年齢と実年齢に配慮した英字新聞や雑誌など読み物教材を活用した活動を組み合わせ、多様なジャンルと表現に配慮した「読む力」を身に付けさせる指導が必要である。

〔「内容を理解し正しく応じる」に関する設問の考察〕

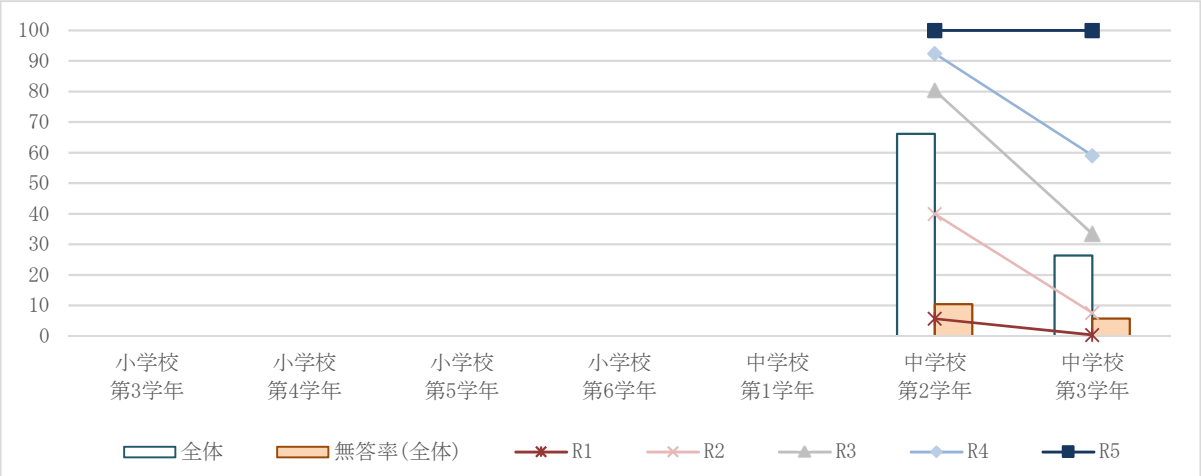
内容理解の次の段階は、相手の意向を理解して適切に応じたり、意見や感想、理由を付けて賛否を示したりすることである。いずれの設問も活用 Aのレベルである。第2学年では、「メールに対する返事を書く」ことを求めている。全体の通過率は47.2%で、無答率もR1で68.9%、R2で46.5%である。第3学年は「ALTの相談にアドバイスをする」ことであり、全体は24.9%、無答率はR1では79.6%、R2では57.5%となった。本文を読み取ることだけに専念して、次のタスクに移行できない生徒が多いと思われる。

これらの解決策として、まず、文章の流れを理解するためのキーワードを拾いながら英文を読み、要点を把握することが大切である。この活動は段落や文章の大意を把握するような読み方であるスキミング(skimming)の力を求めたうえに、収集した情報を取り出し、内容に対する感想や賛否、考えなどを数行の英文を書いてまとめて表現するなど、領域間の統合的な言語活動を工夫することが求められている。これらの活動を取り入れる際には、ペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったりして、読み取れたことについて生徒同士に考えや意見を交換させつつ経験を重ね、自信をもたせることが肝要である。

エ　書くこと

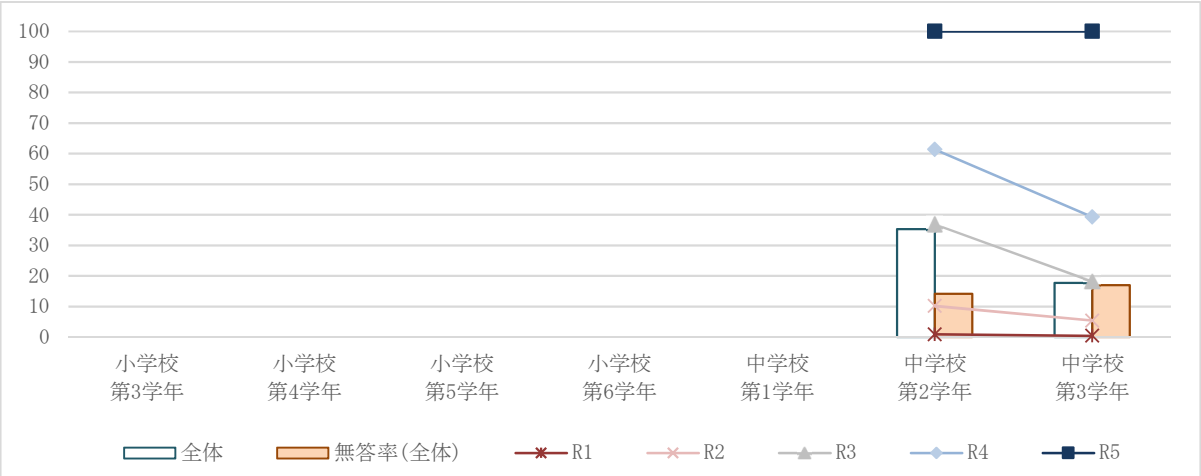
①「聞いたこと等をメモ」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	S	1-5-1	(ｳ)　【理】聞いたことについて英語でメモする。
	第３学年	S	1-4-1	【理】スピーチの内容について英語でメモする。



②「つながりのある文章」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	S	5-2	(ｵ)　他者紹介文を書く。【表】
	第３学年	S	6	日本の紹介文を書く。【表】



〔「聞いたこと等をメモ」に関する設問の考察〕

本設問の系統は、書くことの領域に規定されるものの、聞くこととの統合を目指す「聞いたことを英語でメモすること」を趣旨としている。設問レベルは両学年ともに活用Ｓである。具体的には、文字や符号の識別、語と語の区切りなどに注意して書くなど、日本語とは異なる文字文化を学ぶことを経て、聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりする段階を想定している。第２学年はシドニーについて、第３学年はロンドンについてのスピーチを聞き、英語で整理された表の空欄を補充する設問である。全体の通過率は第２学年では66.2%、第3学年で26.4%である。通過率を段階別でみると、第2学年ではR3以上は接近し、R3 と R2 間には 40%、R2 と１の間には 34%の差がある一方、第３学年では R5～2 間にそれぞれ 40%、26%、32%の差があり、段階間に約 20～40%の差がある。

このことの背景には、学力段階によらず、「正確性」と「流暢性」を求める活動の目的によって使い分けるべき認識と経験不足があると考えられる。こうした課題の解決のためには、目的を明確にした指導とともに書くことの多様な活動を取り入れていく必要がある。例えば、ディクトグロス(dictogloss)は教師が読んだまとまった文章を生徒が聞き取ったことをもち寄ってペアやグループで助け合いながら復元していく「文章復元練習」であるが、文の量や難易度を工夫したり、目的を変えた活動のバリエーションを工夫することでつまずき解消の一助になり得ると考える。

〔「正しく伝わるよう、つながりのある文章を書くこと」に関する設問の考察〕

本設問は、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことである。設問レベルはいずれも活用Ｓである。

第２学年の設問は、好きな友達、歌手、スポーツ選手などから１人選び、ALT に紹介する３文を英語で書く。第３学年では、初めて知り合った外国の友達に日本を紹介する４文を英語で書く設問である。本設問は上記設問とは異なり、書くことの領域が単独であるが、全体の通過率が第２学年 35.3%、第３学年 17.7%であることから、大きな課題と捉えることができる。

新学習指導要領では、「カ　書くこと」の活動の一つに、(ｱ)「趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動」が示されている。また、小学校 5・6 年での教科「外国語」の導入に伴い、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことに慣れ親しんでくる素地を生かし、中学校において書くことの学習における円滑な接続を図ることが課題解決の有効な手だてとなる。今後、小中連携校における更なる連携・協働の推進が求められる。また、書くことは自己表現であり、様々な場面を設定したうえで、英語で相手に伝える喜びや楽しさを実感させる工夫をする必要がある。特に日常の基本的なインプットがアウトプットにつながる必然性と必然性から生まれるコミュニケーション成就の新鮮な満足感は学ぶことのモチベーションを大いに高めるはずである。

3　各学年の結果と分析、考察と改善策

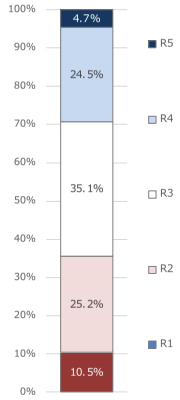
中学校第２学年

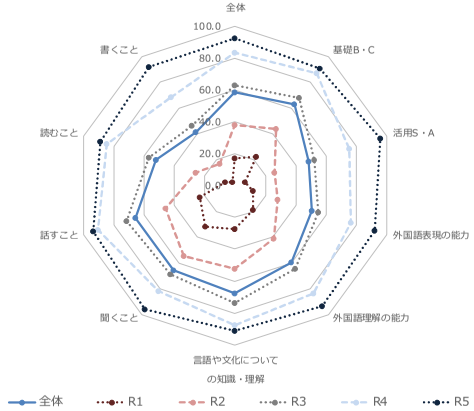
設問番号				出題						学習評価の観点					指導内容の領域					結果											
										1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	（準）通過率（%）						無答率（%）					
連番	大問	小問		学習指導要領に準拠した趣旨	内容	形式	解答形式	設問レベル		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと		全体	R1	R2	R3	R4	R5	全体	R1	R2	R3	R4	R5
1	1	1	1	ア(イ)情報を正確に聞き取ること	動作に関する情報を正確に聞き取る	選択	通常	基礎C				●			■					97.8	86.8	98.4	99.0	99.6	100.0	0.7	5.7	0.4	0.0	0.0	0.0
2	1	1	2	ア(イ)情報を正確に聞き取ること	時間に関する情報を正確に聞き取る	選択	通常	基礎B				●			■					71.4	34.4	61.2	73.9	89.7	94.7	1.1	7.1	1.4	0.1	0.0	0.0
3	1	2		ア(ア)強勢、イントネーション等を正しく聞き取ること	対話の内容から正しい強勢を判断する	選択	通常	基礎C				●	●		■					68.5	29.2	54.9	72.7	89.3	88.3	2.1	12.7	2.6	0.4	0.0	0.0
4	1	3	1	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	所有者に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎C				●			■					68.4	15.1	42.9	78.5	97.2	97.9	2.1	12.3	2.6	0.6	0.0	0.0
5	1	3	2	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	手段に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎B				●			■					69.1	24.1	53.1	74.2	91.7	98.9	2.0	12.7	1.8	0.6	0.0	0.0
6	1	4	1	ア(エ)聞き返す・内容を確認すること	話の内容を聞き返す	選択	通常	基礎C				●	●		■					85.9	45.3	81.7	91.9	96.6	98.9	1.2	9.9	0.4	0.1	0.0	0.0
7	1	4	2	イ(エ)つなぎ言葉を用いるなど工夫して話を続けること	話を続けるためにつなぎ言葉を用いる	選択	通常	基礎C		●			●			■				92.0	59.4	90.6	96.3	99.6	100.0	1.4	11.3	0.6	0.1	0.0	0.0
8	1	5	1	エ(ウ)聞いたこと・読んだことについてメモをとること	聞いたことについてメモをとる	記述	複合条件	活用S				●						■		66.2	5.7	40.0	80.4	92.5	100.0	10.5	58.0	14.4	2.1	0.0	0.0
9	1	5	2	ア(イ)情報を正確に聞き取り、エ(イ)正しく文を書くこと	スピーチの内容を正確に聞き取り、質問に対する答えを書く	自由記述	通常	活用S			●	●			■			■		9.3	0.0	0.8	6.6	8.5	100.0	29.8	78.8	53.1	18.9	6.1	0.0
10	1	5	3	ア(オ)概要・要点を聞き取ること	スピーチの内容を正確に聞き取る	選択	通常	活用A				●			■					57.0	17.9	46.3	54.5	81.8	90.4	4.5	27.8	4.7	1.0	0.2	0.0
11	2	1	1	イ(イ)考えや気持ち、事実などを正しく伝えること	誘いに対する自分の気持ちを伝える	選択	通常	基礎C			●		●			■				67.9	15.6	45.5	77.8	92.9	100.0	1.8	11.3	2.2	0.1	0.0	0.0
12	2	1	2	イ(イ)考えや気持ち、事実などを正しく伝えること	人物の評価に関する自分の考えを正しく伝える	選択	通常	基礎B			●		●			■				81.4	36.3	65.6	91.5	99.2	98.9	1.8	13.2	1.6	0.1	0.0	0.0
13	2	2	1	エ(イ)語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと	語と語のつながりに注意して正しく文を並び替える	記述	完答	基礎B			●		●					■		56.0	6.1	23.2	66.0	89.9	92.6	2.8	18.4	2.8	0.6	0.0	0.0
14	2	2	2	エ(イ)語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと	語と語のつながりに注意して正しく文を並び替える	記述	完答	基礎B			●		●					■		22.8	0.5	4.1	20.5	47.5	60.6	6.0	30.2	9.4	1.3	0.2	0.0
15	2	3	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B			●					■				48.2	2.4	22.2	52.8	82.0	78.7	21.2	66.5	36.6	12.0	2.8	1.1
16	2	3	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B			●					■				39.0	1.9	6.5	38.8	78.8	89.4	35.9	73.6	61.2	30.4	8.3	2.1
17	3	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	金額を正確に読み取る	記述	通常	基礎B				●					■			66.9	8.5	36.0	83.3	94.5	96.8	6.5	35.4	10.0	0.7	0.0	0.0
18	3	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	指示語が意味する内容を正確に読み取る	自由記述	複合条件	基礎B				●					■			26.2	0.0	2.6	21.0	60.4	72.3	19.9	58.0	30.1	15.4	3.0	1.1
19	3	3		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物が学んだことを捉える	記述	通常	活用A				●					■			54.2	6.1	27.0	59.3	88.5	90.4	20.3	68.9	40.4	7.6	0.4	2.1
20	3	4		エ(エ)自分の考えや気持ちなどを書くこと	話題に対する自分の考えを書く	自由記述	複合条件	活用A		●								■		55.3	4.2	24.4	63.4	89.7	94.7	16.6	67.5	30.7	4.4	1.0	0.0
21	4	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の行動に関する情報を正確に読み取る	自由記述	通常	基礎B				●					■			66.5	6.1	40.7	78.8	96.2	92.6	7.8	38.7	13.0	1.3	0.0	1.1
22	4	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の心情に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	活用A				●					■			62.6	17.9	43.7	64.8	91.5	95.7	4.7	26.9	7.3	0.1	0.0	0.0
23	4	3		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の心情に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	基礎B				●					■			41.0	6.6	18.5	39.7	73.1	80.9	6.3	31.1	10.6	1.0	0.2	0.0
24	5	1		ウ(エ)書き手の意向を理解し、エ(エ)考えや気持ちなどを書くこと	メールの内容を理解し、適切に返事を書く	自由記述	複合条件	活用A			●	●					■	■		47.2	0.5	14.0	50.0	88.5	94.7	23.1	68.9	46.5	10.5	1.6	1.1
25	5	2		エ(オ)正しく伝わるようにつながりのある文章を書くこと	紹介文を書く	自由記述	複合条件	活用S			●							■		35.3	0.9	10.2	36.9	61.4	100.0	14.2	59.9	22.4	5.1	2.0	0.0
26																															
27																															
28																															
29																															
30																															

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

教科等	外国語
校種・学年	中学校第2学年
出題範囲	中学校第1学年
対応教科書	開隆堂出版

■学習状況の評定（学力段階）、段階別の平均正答率（%）





設問				平均正答率（%）					
数	%			全体	R1	R2	R3	R4	R5
25	—		全体	58.2	17.3	38.2	62.9	83.2	92.3
17	68.0	基礎／活用別	基礎B・C	62.9	22.3	44.0	68.1	87.0	90.7
8	32.0		活用S・A	48.4	6.7	25.8	52.0	75.3	95.7
		観点別	1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度						
11	44.0		2 外国語表現の能力	50.4	11.6	27.9	54.6	76.2	91.8
16	64.0		3 外国語理解の能力	59.9	19.0	41.4	64.3	83.7	93.3
7	28.0		4 言語や文化についての知識・理解	67.8	27.5	52.2	73.8	87.8	91.3
			5						
8	32.0	領域別	A 聞くこと	65.9	31.6	54.9	68.9	81.8	96.1
5	20.0		B 話すこと	65.7	23.1	46.1	71.5	90.5	93.4
7	28.0		C 読むこと	52.1	6.5	26.1	56.7	84.7	89.1
7	28.0		D 書くこと	41.7	2.6	16.7	46.2	68.3	91.8
			E						

レベル	活用	S	3	12.0
		A	5	20.0
	基礎	B	11	44.0
		C	6	24.0
形式	出題	選択	12	48.0
		記述	7	28.0
		自由記述	6	24.0
	解答	通常	16	64.0
		完答	2	8.0
		複合条件	7	28.0

学習状況の評定（学力段階）				
R1	R2	R3	R4	R5
10.5%	25.2%	35.1%	24.5%	4.7%

【情報を正確に聞き取り、正しく文を書く設問　大問１ (5) ②　活用Ｓ　9.3%】

健のスピーチを聞き取り、①でメモしたことをもとに質問に答える。
What can you enjoy in Sydney?

■　分析

「聞くこと」と「書くこと」の領域を統合した設問である。全体の通過率は、9.3%であり、全設問中で通過率が 1 桁台であるのはこれだけである。段階別では、R5=100%、R4=8.5%、R3=6.6%、R2=0.8%、R1=0.0%である。無答率も全体が29.8%であり R2=53.1%、R1=78.8%と半数以上が無答である。

■　考察

本設問は、シドニーで楽しめることについて「主語と動詞のある１文か２文の英文で書く」問題である。上記の結果になった理由には、第一に、この設問に答える前提として、シドニーで楽しめる三つの内容についてのスピーチを聞き取り、英語でメモを取る必要があることである。この設問ができていないと②の設問に答えることは難しい。第二に、英語で文を書くことができない、また、書くことへの苦手意識が高いことが考えられる。第三として、生徒の意識が文法に集中し過ぎ、全体像を把握できず、設問に的確に答えることができなかったと考える。

■　授業改善

(1)「書くこと」の領域の指導にとどまらず、他の 3 領域と統合する活動を進めていくことが重要である。例えば、リスニングの活動の際、英語でメモをとり、設問に答えた後、自分のことについて 1、2 文の英文で書く活動を付け加えることが有効である。

(2) 活動の目的によっては「流暢性」を「正確性」に優先させることも必要である。本当に自分の表現したいことについて継続的にある程度まとまった量を書くことで、書くことのスキルを体得していくことができる。

(3) 他の領域と比較し、「書くこと」に対する苦手意識が高い。それを克服するためには、年度末、各学期末、各 Unit 末と長期と短期の目標を設定し、スモールステップで「書くこと」の活動を進めていくことである。具体例として、教科書にある Writing Section の活用である。各ページの基本表現を使って自己表現を積み重ね、学期末や年度末でそれらを参考に、ある程度まとまった文を書くことに取り組むことが効果的である。

【あらすじ・大切な部分を正確に読み取る設問　大問２ (2)　基礎Ｂ　26.2%】

ワールド・フード・フェスティバルについてのまとまった文を読み、”that”が指す内容を日本語で簡単に答える。

■　分析

「読むこと」の領域の設問である。全体の通過率は、26.2%であり、段階別では R5 からそれぞれ 72.3%、60.4%、21.0%、2.6%で R1 が 0.0%である。R5 と 4 の通過率は６割を超えているが、R3 においては２割、R2 と R1 においてはほとんど正答していない。無答率については R5 からそれぞれ、1.1%、3.0%、15.4%、30.1%、で、R1 では、58.0%と半数を超えている。

■　考察

指示代名詞 that が指すものを適切に理解しているかを問う設問である。入門期における that は、単語、語句、1 文を示す場合に使われることが多い。中学校第１学年で扱われる that もほとんどが上記の 3 用法である。しかしながら、指示代名詞 that はこの設問のように段落全体を指す場合や接続詞や関係代名詞等の用法が加わり複雑になっていく状況がある。

■　授業改善

(1) 指示代名詞（あれ）、指示形容詞（あの）、接続詞、関係代名詞等、様々な使い方がある that について整理し、系統的に指導する必要がある。具体的には、これらの that の用法を中学校 3 年間でいつ学習するのかという指導計画を立て、時期を整理し、計画的に指導することである。また、新出の用法を指導する際には、既習用法と併せて指導することで生徒も整理しやすくなる。さらに、指導計画を立てる際には小学校の学習内容や経験を考慮することも重要である。

(2) that の用法の理解と定着を図るために、まず、教科書本文で扱うときに、その that が文中の何を指すか、どのような働きであるか等をその都度、丁寧に指導していくことで指示することが何かを自然と意識して内容理解を促進するが大切である。

(3) ある程度まとまった英文を聞いたり読んだりする中で、様々な that の用法に意図的、又は自然に触れることが必要である。ワークブック等の副教材ばかりでなく他社の教科書や出版されている読み物教材とその CD、あるいは実際の TV や映画等の多聞・多読が効果的であると考えられる。

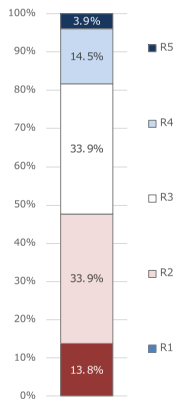
中学校第３学年

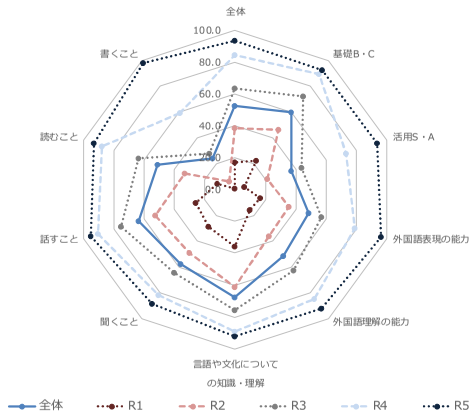
設問番号				出題					学習評価の観点					指導内容の領域					結果											
									1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	（準）通過率（%）						無答率（%）					
連番	大問	小問		学習指導要領に準拠した趣旨	内容	形式	解答形式	設問レベル	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと		全体	R1	R2	R3	R4	R5	全体	R1	R2	R3	R4	R5
1	1	1	1	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	対話文中の意向に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎C			●	●		■					51.9	25.0	40.6	57.2	82.2	86.4	0.9	4.9	0.6	0.0	0.3	0.0
2	1	1	2	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	対話文中の誘いに適切に応じる	選択	通常	基礎B			●	●		■					89.8	60.9	89.6	96.4	99.7	98.8	0.6	3.9	0.1	0.0	0.0	0.0
3	1	2		ア(ア)強勢・イントネーション等を正しく聞き取ること	対話の内容から強勢を正しく判断する	選択	通常	基礎C			●	●		■					37.7	12.3	26.6	42.1	65.4	82.7	1.4	7.7	0.7	0.1	0.0	0.0
4	1	3		ア(エ)聞き返す・内容を確認すること	対話文中で聞き返し、内容を確認する	選択	通常	基礎B			●	●		■					61.2	26.8	53.2	70.0	85.6	85.2	1.2	7.7	0.4	0.0	0.0	0.0
5	1	4	1	エ(ウ)聞いたこと・読んだことについてメモをとること	スピーチの内容を聞き、メモをとる	記述	複合条件	活用S			●						■		26.4	0.4	7.6	33.5	59.1	100.0	5.7	31.3	4.0	0.0	0.0	0.0
6	1	4	2	ア(オ)概要や要点を適切に聞き取ること	スピーチの要点を適切に聞き取る	選択	通常	基礎B			●			■					48.8	18.0	35.5	57.9	77.2	88.9	2.6	13.4	1.9	0.4	0.0	0.0
7	2	1	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、気持ちを伝える	選択	通常	基礎C		●		●			■				86.9	54.2	87.0	94.3	97.3	100.0	0.7	4.9	0.0	0.1	0.0	0.0
8	2	1	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、話題をつなぐ応答をする	選択	通常	基礎C		●		●			■				66.0	30.6	54.6	76.5	94.3	92.6	0.8	5.6	0.1	0.0	0.0	0.0
9	2	1	3	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、話題をつなぐ質問をする	選択	通常	基礎B		●		●			■				81.0	40.5	76.0	93.3	97.7	100.0	1.1	6.3	0.6	0.1	0.0	0.0
10	2	2	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B		●					■				61.9	5.3	41.6	85.3	99.0	96.3	24.0	71.1	34.9	6.9	0.3	0.0
11	2	2	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B		●					■				23.3	0.4	4.3	26.9	64.4	86.4	38.5	81.7	56.7	21.9	3.7	1.2
12	3			ウ(エ)書き手の意向を理解し、エ(エ)考えや気持ちなどを書くこと	文化の違いに関する書き手の意向を理解し、アドバイスを書く	自由記述	複合条件	活用A		●	●					■	■		24.9	0.7	3.7	24.2	81.2	92.6	40.0	79.6	57.5	26.6	3.0	1.2
13	4	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	観に行く映画のタイトルを正確に読み取る	記述	通常	基礎B			●					■			51.1	9.5	30.0	68.0	90.3	90.1	7.9	43.3	5.4	0.3	0.0	0.0
14	4	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	本文から状況を正確に読み取る	選択	通常	基礎C			●					■			57.5	11.3	36.1	77.3	94.6	98.8	4.0	20.1	3.4	0.3	0.0	0.0
15	4	3	1	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物のスケジュールを正確に読み取る	選択	通常	基礎B			●					■			47.4	16.5	21.9	61.7	91.6	90.1	3.9	18.7	2.7	1.1	0.0	0.0
16	4	3	2	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物のスケジュールを正確に読み取る	選択	通常	基礎B			●					■			58.2	16.2	35.3	78.3	94.3	96.3	4.3	20.1	3.9	0.7	0.0	0.0
17	4	4		ウ(オ)感想、賛否・理由を示すことができるように、内容や考え方を捉えること	本文を読んだ第三者の感想の理由となる内容を本文から捉える	選択	通常	基礎B			●					■			49.8	13.4	27.6	66.1	87.6	88.9	5.0	19.7	5.0	1.6	0.3	0.0
18	4	5		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の行動に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	活用A			●					■			63.6	14.8	48.1	81.1	96.3	97.5	4.5	19.0	4.9	0.7	0.0	0.0
19	5	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の意見に対応する情報を、資料から正確に読み取る	記述	通常	基礎C			●					■			74.2	16.9	66.0	92.4	98.3	100.0	8.6	43.0	7.0	0.9	0.0	0.0
20	5	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見から、当該人物の経験に関する情報を正確に読み取る	記述	通常	基礎B			●					■			72.3	21.8	62.8	88.3	98.3	97.5	6.2	31.0	4.7	0.9	0.3	0.0
21	5	3	1	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、話題とは関係ない情報を正確に読み取る	記述	通常	活用A			●					■			68.3	14.1	57.1	85.3	98.3	98.8	6.7	34.5	4.7	1.0	0.0	0.0
22	5	3	2	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、話題とは関係ない情報を正確に読み取る	選択	通常	活用A			●					■			48.4	16.5	34.3	51.8	90.3	97.5	8.1	29.6	8.2	3.7	0.0	0.0
23	5	4		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、共通しているものを正確に読み取る	記述	通常	活用A			●					■			20.5	0.7	3.3	21.7	64.8	64.2	18.0	48.6	23.5	9.6	1.0	0.0
24	5	5		ウ(ウ) 正確に読み取り、エ(ウ)感想、賛否・理由を書くこと	人物の意見を正確に読み取り、賛否とその理由を書く	自由記述	複合条件	活用S		●	●					■	■		27.5	1.1	9.3	35.3	57.0	100.0	39.4	81.3	56.5	24.6	4.7	0.0
25	6			エ(オ)正しく伝わるようつながりのある文章を書くこと	日本の紹介文を書く	自由記述	複合条件	活用S		●							■		17.7	0.4	5.4	18.2	39.3	100.0	17.0	57.0	19.6	6.7	1.3	0.0
26																														
27																														
28																														
29																														
30																														

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

教科等	外国語
校種・学年	中学校第3学年
出題範囲	中学校第2学年
対応教科書	開隆堂出版

■学習状況の評定（学力段階）、段階別の平均正答率（%）





設問 数	設問 %			平均正答率（%） 全体	R1	R2	R3	R4	R5
25	—		全体	52.7	17.1	38.3	63.3	84.2	93.2
17	68.0	基礎／活用別	基礎B・C	59.9	22.3	46.4	72.5	89.3	92.9
8	32.0		活用S・A	37.2	6.1	21.1	43.9	73.3	93.8
		観点別	1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度						
8	32.0		2 外国語表現の能力	48.7	16.6	35.2	56.7	78.8	96.0
19	76.0		3 外国語理解の能力	51.6	15.6	36.2	62.5	84.8	92.3
7	28.0		4 言語や文化についての知識・理解	67.8	35.8	61.1	75.7	88.9	92.2
			5						
5	20.0	領域別	A 聞くこと	57.9	28.6	49.1	64.7	82.0	88.4
5	20.0		B 話すこと	63.8	26.2	52.7	75.3	90.5	95.1
13	52.0		C 読むこと	51.1	11.8	33.5	63.9	87.9	93.3
4	16.0		D 書くこと	24.1	0.6	6.5	27.8	59.1	98.1
			E						

レベル	活用	S	3	12.0
		A	5	20.0
	基礎	B	11	44.0
		C	6	24.0
形式	出題	選択	14	56.0
		記述	8	32.0
		自由記述	3	12.0
	解答	通常	19	76.0
		完答	0	0.0
		複合条件	6	24.0

学習状況の評定（学力段階）				
R1	R2	R3	R4	R5
13.8%	33.9%	33.9%	14.5%	3.9%

【強勢・イントネーション等を正しく聞き取る設問　大問１　(2)　基礎Ｃ　37.7%】

対話文を聞いてその答えとなる文の中でいちばん強調して読む語を選ぶ。

F:　It's October 17 today.　Is tomorrow Keiko's birthday?

M:　No, it isn't.　Her　birthday　is　October　27.

ア　イ　ウ　エ　オ

■　分析

「聞くこと」の領域の設問である。設問レベルが基礎Ｃであるが、全体の通過率は37.7%と基礎Ｃの設問中で最も低い。段階ごとの通過率は、R5＝82.7%、R4＝65.4%、R3＝42.1%、R2＝26.6%、R1＝12.3%である。R5の通過率は全設問の中で大問5-4活用Ｓの64.2%についで低い数字である。

■　考察

扱われている対話文は、誕生日についての対話で小学校の外国語活動でも扱われているものである。このような結果である原因としては、設問が一度しか読まれないため、内容を聞き取れなかったということが考えられる。また、「強調して読む」という意味が理解できなかったということも考えられる。英語でも日本語同様に、何かを伝えたいときに、いちばん伝えたい言葉を強調して発話するという基本が習得できていないということである。

■　授業改善

(1) 小学校での外国語活動の成果で、以前よりも英語の音声に慣れてきているが、中学校においても音声を優先させる指導の必然性を再認識する必要がある。また、日頃の学習では、一回で聞き取れないときには、理解できるまで聞き返せたり、リスニングの練習も２回繰り返して問題に答えたりするような場面が多いが、現実のコミュニケーションでは時と場合によるので、1 回だけでも聞きとる心構えと集中力を身に付けられるように、幅広いリスニング練習も取り入れる必要がある。

(2) 文字のみでは意図が分かりにくい会話も、音声として強勢やイントネーション、リズム、テンポ等を変えることで、意図したい情報を確実に伝えることができることを意識させる。そのために、ほんとうにその情報を伝えたいと主体的に思う場面を設定したり、ペアやグループ活動などで気持ちを込め会話をしたりする機会を増やしていくことが大切である。

(3) R1・2 の生徒にとっては、基本的な語の習得が不十分であったり、使い慣れない数字になると急に不安になったりすることが多い。基本練習であっても無味乾燥な反復練習より、意味のある活動の中で使う工夫が必要である。

【大切な部分などを正確に読み取る設問　大問５　(4)　活用Ａ　20.5%】

海外への留学生と海外からの留学生に関する５人の生徒の意見を、グラフなどの資料を使って正確に読み取る大問中、本設問は５人の意見を読み、ほぼ共通の意見をもつ３人を見付け、次に、その３人の「ほぼ共通する内容」に当たる文を１文選び、抜き出して書く。

■　分析

長文問題である大問５は、その６問中４問が複数の意見を比較し、情報を正確に読み取る設問である。レベルは、４問中３問が活用Ａである。同じレベルの他の設問の通過率が 68.3%、48.5%であるのに対し、本設問の通過率は 20.5%である。また、段階ごとの通過率は R5＝64.2%、R4＝64.8%、R3＝21.7%、R2＝3.3%、R1＝0.7%である。R4 と 5 の間に通過率の逆転が見られた。さらに R5 では、無答率は 0%であったが、通過率は活用Ｓも含めた全設問中最も低いものとなっている。

■　考察

本設問は、まず５人の中でほぼ共通の意見をもっている３人を見付けなければならない。異なる５人の人物の意見を短時間で読み取り、それぞれの相違点を理解して共通の意見をもつ３人を探すという課題が困難であったと考えられる。３人以外のもう一人の意見も、考えようによっては共通する意見と捉えられなくもなく、また、共通の意見の 3 人にも、それぞれの生徒の意見は微妙な違いがあり、R5 の生徒たちにとっても、より難しい課題となったとも考えられる。

■　授業改善

(1) ある程度の量の文章の大意把握の力を高めるために、スラッシュリーディングを導入し、そのうえでスキムリーディングを取り入れるなどして、細部にこだわらず最後まで通読することを意識させる。その際、黙読をしながら 5W1H の情報をイメージ化してすくい取ることを最初の視点として活用させる。

(2) 今回の設問のように、似通ってはいるが異なる英文を正確に読み取るために、文法をはじめ、単語の意味や連語、指示代名詞の把握なども含め、授業の中で文章を精読させる場面を計画的に設定する。

(3) 内容理解の手だてとして、ペアワークで質問を考えさせ、それに答えるというような協働学習を行わせる。学力段階など、異なる学習状況にある生徒同士が協同できるよう、ペアやグループの組み方を意図的・定期的に変化させようにする。

(4) 多読できる環境設定をし、生徒が自らの興味や学習レベルに応じ、ある程度量のある文章を、楽しんで主体的に読むことにより読解力を高める。

4　総括：新学習指導要領を踏まえた一貫性のある外国語教育

○各学年の考察においては、本調査の目的である「よりよい人生を切り拓く基盤となる学力を確実に身に付けさせる」の下、基礎的・基本的な知識及び技能を趣旨とする設問(基礎 C・B)、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他能力を主とする設問(活用 A・S)を一つずつ取り上げ、改善策をまとめてある。

○今後は、新学習指導要領を踏まえた取組が求められる。今回の改訂では、小学校第 5・6 学年では教科となり、読むことや書くことに慣れ親しむことが加わるとともに、話すことを「やり取り」と「発表」に分けた計 5 技能をもって、実際のコミュニケーションに活用できる基本的な技能を身に付けることなどが目標に掲げられている。

表　新学習指導要領に規定される「文字の取扱い」に関連したコミュニケーション活動の【連続性】

小学校		中学校
第 3・4 学年	第 5・6 学年	
言語活動に関する事項		
ア　聞くこと (ｳ)文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動 ※文字については、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱うこと(指導計画の作成と内容の取扱い、内容の取扱いに関する配慮事項)	イ　読むこと　※省略 オ　書くこと (ｱ)文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動 (ｲ)相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動 (ｳ)相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動 (ｴ)相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動	ウ　読むこと　※省略 オ　書くこと (ｱ)趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動 (ｲ)簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動 (ｳ)日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動 (ｴ)社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動

○言語習得の特性から、基本的な語句や表現などは、具体的な場面や状況にあった多様なコミュニケーション活動を通して、繰り返し学習させることで定着を図ることが期待されている。平成 29 年度査でも引き続き課題の大きかった「書くこと」の改善を図るためにも、「読むこと」も含めた「文字(記号)の取扱い」については、上表を踏まえ、小学校第 1・2 学年からの【系統性】の理解に立った【連続性】の確保が求められる。

○中学校では、5 技能はもちろん、授業を高校と同様、外国語で行うことを基本とし、扱う語彙の数も、新学習指導要領では現行の 1200 語程度から 1600～1800 語程度に増加する。これは小学校で扱うこととなった 600～700 語を加えると現行の約 2 倍の 2200～2500 程度となる。授業時数の変更はないため、より一層の指導の工夫が求められる。

○よって、中学校へとつながる小学校の教育効果をより一層高めるために、児童や学校・地域の実態を踏まえ、朝の時間、昼休み前後の時間、放課後の時間などを活用した 15 分程度の短時間学習や、45 分と 15 分を組み合わせた 60 分授業の実施など、計画的かつ組織的な教育課程の編成・指導計画の策定が求められる。

○中学校の学習や指導は、こうした小学校の基盤に立って行われるものである。『すぎなみ 9 年カリキュラム』等を参照しながら新学習指導要領の研究を深め、ALT や JTE といった学校外人材とも十分に協働し、新しい時代の外国語教育を展開する必要がある。